

執筆要綱

1. 論文は和文または英文とします。英文の場合は、英語を母語とする外国人に校閲を受け、所定の校閲証明書を添付してください。
2. 原稿は Microsoft 社の Word (DOCX) 形式で保存してください。すべて横書きとし、頁設定を A4 縦、原則として 40 字×30 行にしてください。図表は PDF 化しないもの、写真はそのまま掲載できる鮮明度のものを送ってください。当方でトレースをした場合は実費を徴収します。
図、表、写真の挿入箇所を、本文原稿の欄外に、図○、表○、写真○と赤字で記載してください。また、図、表、写真の一覧を作成すると同時に、各々の図、表、写真の説明は別の用紙に一括して記載してください。
3. 原稿は以下の体裁で作成してください。
 - 1) 表紙 (フォーマットを使用し、下記情報を記載してください)

論文情報：論文題目 (日本語・英語)、論文種別 (投稿区分)、日本語のキーワード (5 語以内)、英語のキーワード (5 語以内)、本文の文字数 (要旨、文献を含む)、図表・写真の個数

著者情報：筆頭著者・共著者の姓名 (漢字表記、仮名表記、英語表記)、筆頭著者・言語聴覚士である共著者の協会会員番号、筆頭著者と共著者の所属 (科名まで) と所在地 (日本語・英語)、筆頭著者の連絡先 (住所、電話番号、FAX、e-mail アドレス)。
 - 2) 論文原稿 (頁番号と行番号を記載してください)
 - ①原著、総説、症例報告、短報、調査報告の場合

最初に論文題目 (日本語・英語)、論文種別 (投稿区分)、和文要旨 (400 字以内)、日本語のキーワード (5 個以内)、英文要旨 (200 語程度)、英語のキーワード (5 個以内)、本文の文字数 (要旨、文献を含む)、図表・写真の個数を記載する。

本文の構成は、原則として以下のとおりとする。

I. はじめに、II. 方法、III. 結果、IV. 考察 (結論を含む)
 - ②レポート「現場最前線」の場合

最初に論文題目 (日本語・英語)、論文種別 (投稿区分)、和文要旨 (400 字以内)、日本語のキーワード (5 個以内)、英文要旨 (200 語程度)、英語のキーワード (5 個以内)、本文の文字数 (要旨、文献を含む)、図表・写真の個数を記載する。

本文の構成は、原則として以下のとおりとする。

I. はじめに、II. 方法、III. 結果、IV. 考察 (結論を含む)
 - 3) 論文の図表や画像等の作成において、生成 AI を補助的に利用した場合は表紙および本文の方法や謝辞等にその利用内容を具体的に記載してください。
 - 4) 利益相反、謝辞、文献、註

本文原稿の最後に上記の順序で記載する。

利益相反関係がある場合は、関係する企業・団体名を記載する。また、研究費の補助を受けている場合、公的機関や私的企業の名称等を明記する。

記載例) ・開示すべき利益相反は存在しない。

 - ・本研究は○○から資金提供を受けた。
 - ・本研究は○○から実験装置/測定機器の提供を受けた。
 - ・公的研究費を受けた場合は、下記を参考にその旨を記載してください。

例) 本研究は、日本学術振興会科学研究費、令和○年～令和○年○○研究 (○)、課題番号○○、研究課題名○○、代表者○○、の資金を用いて実施した。
4. 外国語名 (人名、薬品名など) は原語のまま用い、ワープロを使用するか、活字体で明記してください。ただし、日本語化しているものはカタカナ書きしてください。学術語はできるだけ訳語を用い、必要に応じて () 内に原語を入れてください。数字は算用数字を用い、度量衡単位は、m, cm, mm, cm², ml, l, dl, kg, g, mg, などを使用してください。

5. 論文の文献は、本文に引用されたもののみとします。
- ・本文中に文献を引用する場合は、その個所の右肩に¹⁾や^{1,2,5-7)}のように記す。
 - ・引用した文献をまとめて文献一覧を作成し、本文文末に記載する。文献一覧は引用順に配列し、1), 2)・・・と通し番号を付す。
6. 文献一覧の書き方は統一し、外国雑誌は原則として Index Medicus に従って略号で記載して下さい。文献の著者が3名以内の場合は全員の名前を記載し、4名以上のときは最初の3名を記載し、残りは「・・・ら」、または [et al.] と記して下さい。著者間は英文の場合も & を入れずに、カンマで区切って下さい。

[雑誌の場合]

著者名：論文タイトル。雑誌名、巻数(号数)；最初の頁-最後の頁、西暦発行年

- 例 1) 福岡達之, 川阪尚子, 野崎園子ら：嚥下障害患者に対する随意咳嗽の空気力学的測定と誤嚥の関連. 言語聴覚研究, 8 (3) ; 131-138, 2011
- 2) Naeser MA, Martin PI, Nicholas M, et al. : Improved picture naming in chronic aphasia after TMS to part of right Broca's area : An open-protocol study. Brain Lang, 93 ; 95-105, 2005
- 3) Max L, Yudman EM : Accuracy and variability of isochronous rhythmic timing across motor systems in stuttering versus nonstuttering individuals. J Speech Lang Hear Res, 46 ; 146-163, 2003

[書籍の場合]

〈和書〉

著者名(訳者名)：論文タイトル。書籍名(編者名, 編)。版数, 出版社, 出版地, 引用頁, 西暦発行年
訳本の場合は、著者名と訳者名の両方を記載する。訳者名は著者名の後ろに(〇〇訳)と書く。

- 例 1) 笹沼澄子, 綿森淑子, 福迫陽子ら：失語症の言語治療. 医学書院, 東京, 52-75, 1993
- 2) 能登谷晶子：機能性聴覚障害. 標準言語聴覚障害学—聴覚障害(中村公枝, 城間将江, 鈴木恵子編). 医学書院, 東京, 292-295, 2010
- 3) Basso A (武田克彦ら訳)：失語症—治療へのアプローチ. 中外医学社, 東京, 202-222, 2006

〈洋書〉

著者名：論文タイトル. In：書籍名(eds 編者名). Xth Ed., 出版社, 出版地, 引用頁, 西暦発行年

- 例 1) Goodglass H : Understanding aphasia. Academic Press, New York, 13-39, 1993
- 2) Heim S : The language production-comprehension network in functional imaging. In : Language-normal and pathological development (eds Riva D, Rapin I, Zardini G) . John Libbey Eurotext, Montrouge, 51-60, 2006

[インターネット文献の場合]

著者名：タイトル. 記述された西暦公開年(不詳の場合は省略). URL, 参照した年.月.日(西暦年)

- 例 1) 日本社会学会：日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針. 2006 (2023 改訂). <https://jss-sociology.org/wp/wp-content/uploads/2023/03/Shishin.pdf>, 2023.7.20

2004 年 1 月 12 日制定

2026 年 6 月 20 日改訂